

3 緑の課題

(1) 広域からみた課題

さいたま市の緑の骨格をなしている見沼田圃や荒川は、「首都圏の都市環境インフラのグランドデザイン」において、まとまりがある保全すべき緑地として位置づけられています。また、首都圏の都県と政令指定都市で構成する八都県市は相互の連携によって、広域的な緑のネットワークの将来像の実現に向けて、次のことを目標としています。

「河川沿いに緑の軸」をつくる

- ・「広域的な緑のネットワーク」を形成する河川(荒川)
.....広域的な河川と河川沿いの緑により放射状の緑のネットワークを形成

「エコアイランド」をつくる

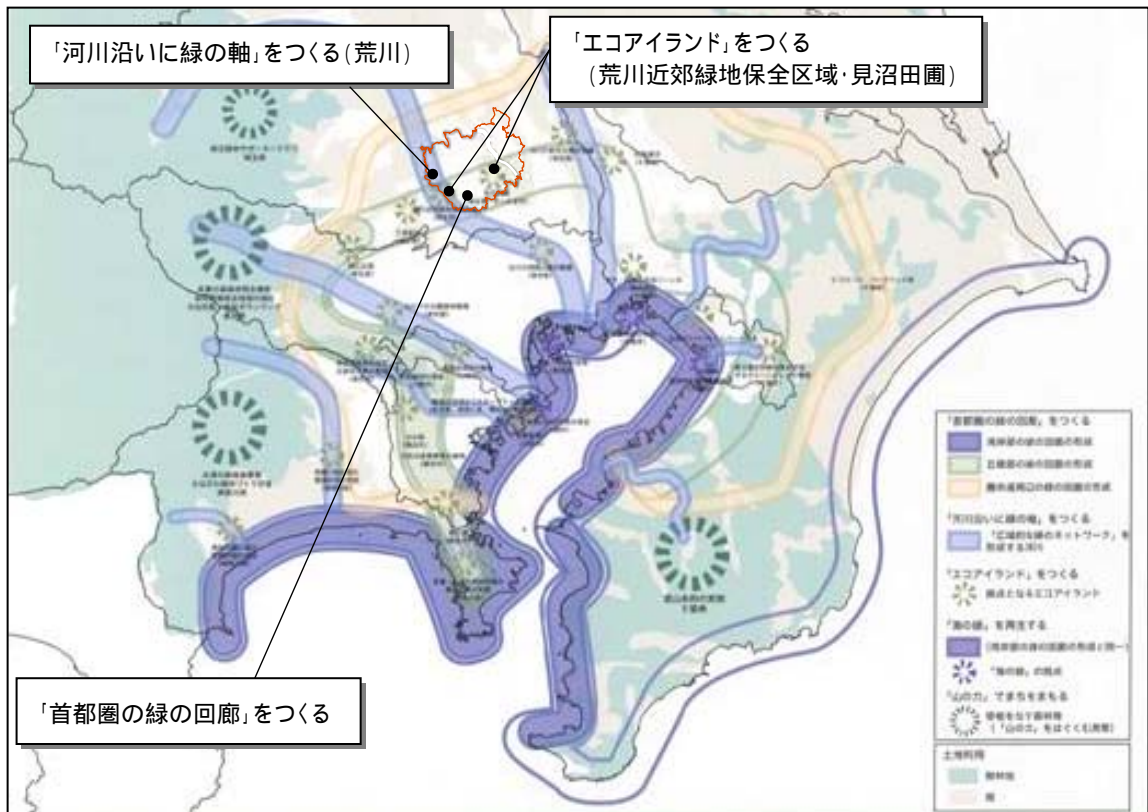
- ・拠点となるエコアイランド(荒川近郊緑地保全区域・見沼田圃)
.....市街地内に点在して残っている緑によるネットワークを形成

「首都圏の緑の回廊」をつくる

- ・丘陵部の緑の回廊
.....丘陵地、農地などにより環状の緑のネットワークを形成

本市の見沼田圃と荒川は、広域的な観点からみても重要な緑として位置づけられており、また見沼田圃と荒川をネットワークとして結ぶことが求められます。

広域的な緑のネットワークの将来像



用語解説

- 八都県市 (P175)
- ネットワーク (P175)
- エコアイランド (P172)

(出典:「八都県市 緑の『知る・見る・歩く』マップ ~首都圏の緑のネットワークの形成を目指して~」平成16年11月 八都県市首脳会議 環境問題対策委員会 緑化政策専門部会 (一部加筆))

(2) 緑の現況からみた課題

本市の緑被率は約48%となっていますが、これは見沼田圃や荒川という広大な緑があるだけでなく、身近な緑が豊かであることを示しています。しかし、この身近な緑のうち、特に市街化区域の緑は開発や相続などによって減少し、平成17年の樹林地と農地の面積は、昭和59年の樹林地と農地の面積の約35%となっています。また、都市公園の整備水準も低く、緑を新たに創出することが必要となっています。

このような緑の現況からの課題は、次のように整理することができます。

さいたま市らしい身近な緑のうち、特に市街地内の雑木林や屋敷林、農地を保全するために、緊急的な対策が必要です。

都市公園を中心として、身近な市民の庭となる公園緑地の整備を推進するとともに、公共公益施設・道路・民有地など、あらゆる場所に緑を創出していくことが必要です。

(3) 緑の役割からみた課題

1章で整理したように、緑には多くの役割があり、私たちの生活を支えています。私たちの暮らしをより豊かにしていくためには、緑の機能が効果的に発揮されるように、質や配置を考慮しながら確保していくことが重要です。

ここでは、緑の役割を踏まえ、緑の質や配置を含めた課題を4つの視点に基づき整理します。

課題整理の4つの視点

都市の環境を守る緑	•都市の環境を改善する緑を保全・創出する
	•多様な生き物の生息を育む緑を保全・創出する
	•健全な水循環を支える緑を保全・創出する
生活に豊かさを与え、 多様なレクリエーション活動に役立つ緑	•身近な公園を歩いて行ける範囲に整備する
	•都市レベルの大規模な公園を整備する
	•緑にふれあうレクリエーション・ネットワークの形成を図る •暮らしにうおいや安らぎを与え、多様な活動の場となる緑を確保する
安全な都市をつくる緑	•災害の防止に役立つ緑を保全・創出する
	•避難体系上重要な緑を保全・整備する
さいたま市らしい 魅力ある景観をつくる緑	•代表的な郷土の景観や優れた歴史・文化の景観を形成する緑を保全する
	•都市的な景観を形成する緑を創出する

都市の環境を守る緑の課題

さいたま市の緑の骨格・構造は首都圏レベルでも重要な役割を果たしており、広域的な環境を守る役割が求められます。また、都市は地球環境を構成する大きな一員であると認識し、都市の環境を守る緑を地球環境の改善に役立つ緑として保全・整備していくことが必要です。

都市の環境を守るための緑の課題を整理します。

都市の環境を改善する緑を保全・創出する

さいたま市の緑の骨格や構造を活かし、都市の気象を緩和してくれる緑を保全・創出していくことが必要です。

- 緑は二酸化炭素の吸収・吸着機能があります。地球温暖化に対するために、あらゆる場所において豊かな緑を積極的に確保していくことが重要です。
- ヒートアイランド現象を緩和していくために、農地・樹林地・オープンスペースなどの緑被地が重要な役割を果たしています。特に、大宮公園・氷川神社の緑や、芝浦工業大学・生物系特定産業技術研究支援センター・埼玉大学・日本大学などの緑を保全するとともに、公園緑地の整備や農地の保全が必要です。また、市街地に隣接している見沼田圃や荒川・元荒川周辺などのまとまりのある農地や河川は、清涼な空気を提供する風の道となるため、周辺を含めた緑の保全と創出が必要です。
- 大気の浄化や騒音を防止するため、幹線道路沿道などでは緑を確保することが重要です。

多様な生き物の生息を育む緑を保全・創出する

生き物が生息・生育するためには、それぞれの種に応じたさまざまな環境が必要です。見沼田圃、荒川や元荒川を中心として、各所でそのような環境を確保し、つなぐことが重要です。

- 良好な自然環境の荒川、元荒川やびん沼川、見沼田圃、鴨川、綾瀬川、西北部・東部の樹林地などを保全する必要があります。このほか、国の特別天然記念物である「田島ヶ原サクラソウ自生地」をはじめ、市内に点在する希少動植物の生息地・生育地の保全が重要です。
- 生き物の生息地として、見沼田圃の水田・湿地、荒川河川敷、元荒川、赤坂沼、河川・水路、屋敷林・雑木林、農地、大宮公園・氷川神社の緑や、施設の緑地、水辺のある調整池・調節池などが重要です。このような緑を保全していくとともに、生息環境としての質の向上が必要です。
- これらの生き物の生息・生育に適した場所を保全・創出するとともに、相互を回廊として結び、ネットワークを形成していくことが必要です。特に河川はその役割の中心として重要です。

健全な水循環を支える緑を保全・創出する

市内には多くの河川や水路が流れています。これらの水辺を保全するとともに、生態系の回復などを中心として、健全な水循環を確保することが必要です。

- 河川や水路では、生き物が生息できる護岸などの整備や、調節池などを活用したビオトープの創出が必要です。
- 保水機能を確保するために、まとまりのある樹林地の保全や公園緑地の整備などが必要です。また、農地の土壌は、微生物の働きによって水の浄化などに効果があるほか、保水・透水機能があり、保全が必要です。
- 雨水の多様な利用や地下浸透を進めるとともに、下水処理水の効果的な利用の検討も必要です。

用語解説

地球温暖化

(P174)

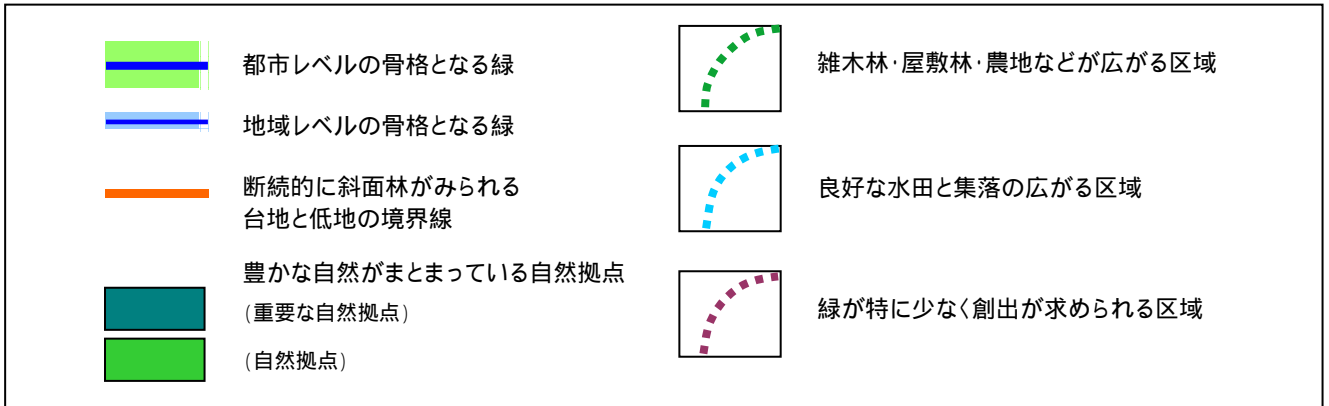
ヒートアイランド現象

(P175)

ビオトープ

(P175)

課題図



(参考:「さいたま市エコ・マップ」(財)埼玉県生態系保護協会)

生活に豊かさを与え、多様なレクリエーション活動に役立つ緑の課題

緑の持つ疲れをいやす効果は、市民の健康の維持・増進や回復に役立ちます。また公園緑地などのオープンスペースは、スポーツ・レクリエーションの場としての役割が期待されます。さらに、今後はライフスタイルの多様化に伴う市民の要望に応え、生活に豊かさを与えていく役割が重要となります。生活に豊かさを与え、さまざまなレクリエーション活動に役立つ緑の課題を整理します。

身近な公園を歩いて行ける範囲に整備する

身近な公園である住区基幹公園のうち、街区公園は比較的整備が進んでいますが、近隣公園・地区公園については不足しているため整備が必要です。

- 街区公園の整備は比較的進んでいますが、市街地の中央部などで不足区域があります。また、約6割が1,000㎡未満の小規模な公園であるため、適正規模の公園の配置が必要です。
- 近隣公園については、土地区画整理事業の進捗にあわせて整備が進んでいますが、市街地の中央部で不足区域が広がっています。
- 地区公園は3箇所整備されているだけで、ほぼ全域で不足している状況にあります。

都市レベルの大規模な公園を整備する

総合公園は市民1人当たり0.61㎡(国の整備標準1㎡/人)、運動公園については0.74㎡(国の整備標準1.5㎡/人)で、都市基幹公園全体では1.35㎡で、整備標準(2.5㎡/人)の半分であるため、今後積極的な整備が必要です。

- 都市レベルの公園の配置を区別でみると、総合公園・運動公園が整備されているのは緑区・西区で、その他はどちらかのみ配置か、水準が低い状況となっていることから、今後は、各区に対応させた配置が必要です。
- 都市レベルの公園は、骨格を強化することや自然環境を積極的に活かし、都市としての風格をつくり出す必要があります。

緑にふれあうレクリエーション・ネットワークの形成を図る

緑にふれあう場所は、訪れやすい距離や位置にあることが重要です。特に東西を結ぶネットワークの形成が必要です。

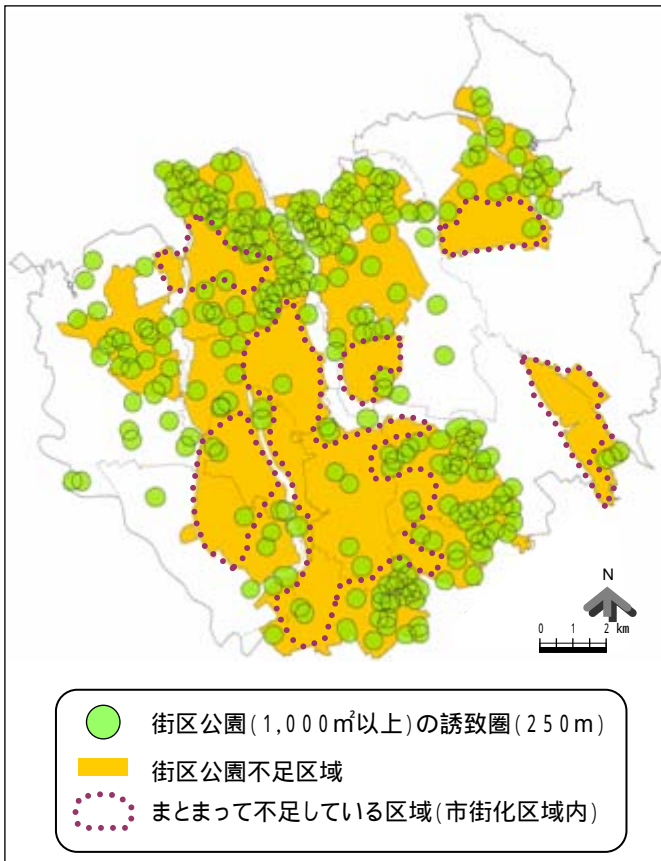
- サイクリング・散策路や街路のネットワークは、歴史・文化や緑が豊かな地区、見沼田圃をめぐる地域での形成が必要です。
- 河川・水路は緑のネットワークを構成する重要な要素であるため、水辺を活用することが求められます。また、歩行者空間については、中央部の市街地と見沼田圃・荒川・元荒川一帯の緑を東西に結ぶネットワークの整備が重要です。

暮らしにうるおいや安らぎを与え、多様な活動の場となる緑を確保する

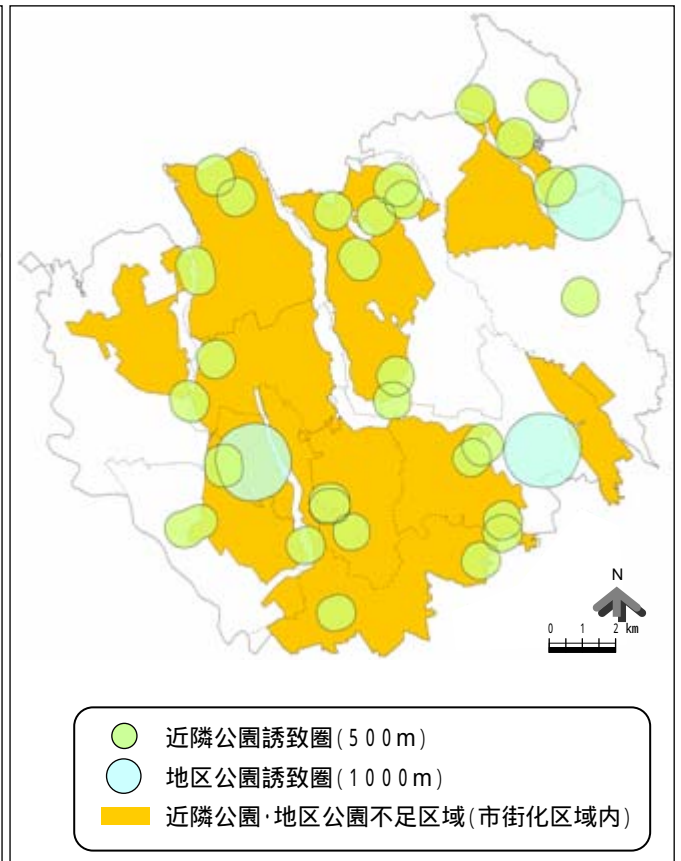
緑に対するさまざまな要望に応えていくため、緑を介したコミュニケーションや体験・学習の場として活かしていくことが必要です。

- 市民の健康増進に役立つスポーツ・レクリエーションに対応した整備が必要です。
- 公園や緑地などを自然観察、農業体験や歴史・文化を含めた環境学習の場として積極的に活用していくことが必要です。

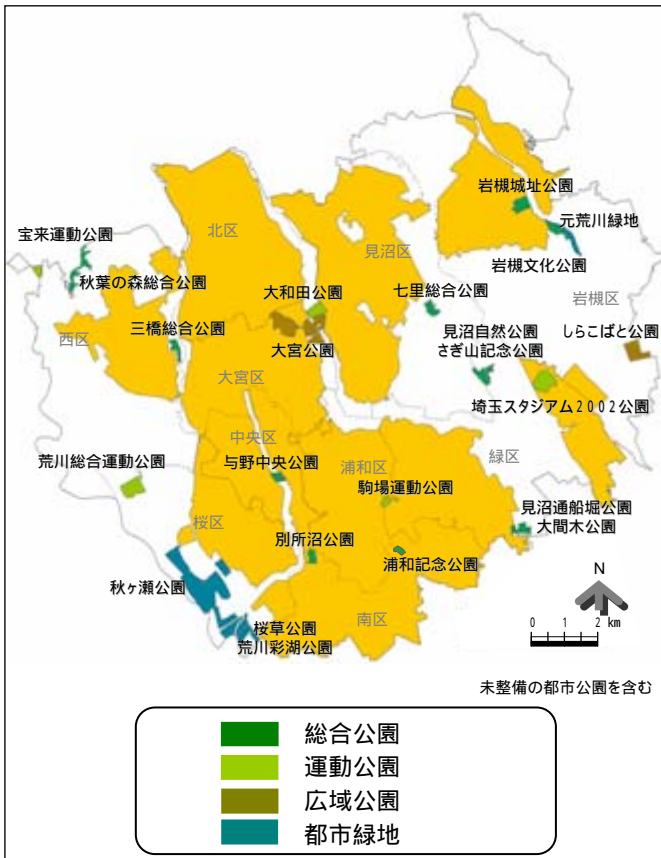
街区公園誘致圏図



近隣公園・地区公園誘致圏図



都市基幹公園などの大規模な都市公園の配置状況



レクリエーション・ネットワーク課題図

